

平成22年度実施

第3回深谷市環境エコ川柳優秀作品一覧

<特選>

資源ゴミ父は我が家の仕分人

(きんたろう)

<準特選>

ゴミ捨てりゃ見ていたカラス「アホ」と鳴く

(カズ坊)

補助金が終わればエコをしなくなり

(けい子姉^{ねえ})

<佳作>

エコ心持って地球と手を繋ぐ

(空蟬^{うつせみ})

ひきこもりエコ・ワクチンでボランティア

(新井喜市)

温暖化地球に異変増えてくる

(金子孝男)

公約にゴミの無い町のせてくれ

(玉井澄雄)

エコロジー団扇と打ち水仲間入り

(古川美代子)

審査員 深谷市瀬山 てじま晩秋
深谷市東方 酒井 青二

応募下さいました市民の皆様ありがとうございました。今年のテーマも昨年に引き続き「環境エコ川柳」です。

審査に当たり、次のような基準で採点しました。一つは作者がどのように「環境エコ」に取り組んでいるか。もう一つは作品の完成度かどうか、また、川柳の基本が守られているかどうかを重点に審査しました。

○ 特選「資源ごみ」の句

マニフェストの一つ、事業仕分けを資源ごみに結び付けたところが良かった。句意もリズムも整っている。

○ 準特選「ゴミ捨てりゃ」の句

着眼がおもしろい。普通ならカラスは「カァ」と鳴くものだが、作者は「アホ」と表現した。人間のマナーが問われる句である。

○ 準特選「補助金が」の句

この句は、下5を「しなくなる」と断定しなかったことが良かった。庶民の心理を突いた句。

「エコ心」の句

川柳としてのインパクトが弱いですが、下5の「手を繋ぐ」で作者のエコへの思いが伝わってきた。川柳は標語と違って句の中に自分（私）がなければなりません。入選句をさらに川柳的にすると「エコ心持って地球と会話する」となります。

「ひきこもり」の句

類想句のない、ユニークな句です。川柳はこれでいいのです。欲を言えば、下5の「ボランティア」にもう一工夫するとさらに良くなった。

「温暖化」の句

この句のとおり異常気象が世界中に起きている。今こそ温暖化防止を真剣に取り組んで行かなければならない。

「公約に」の句

明るい話題やニュースが少なくなってきた現代、せめてゴミの無い綺麗な町作りを公約にして欲しいと、作者は呼びかけている。共感する句である。下5の「のせてくれ」が、やや雑に見えるがこの場合はこれでいいと思う。「のせて」を漢字で「載せて」にすると、意味が分り易くなる。

「エコロジー」の句

やや古くさい、ノスタルジアな句になっているが、実はここに温暖化のヒントが隠されている。団扇、打ち水、大いにけっこう。

選者の句

省エネの町から消えた温暖化

酒井 青二

限りある資源と共に生きてゆく

てじま晩秋